

ケアマネジメント基礎コース

令和4年3月2日（水）

ケアマネジメント基礎コースの目的

1. ケアマネジメントを学ぶ入口であることから、相談支援従事者初任者研修の構造と各科目の獲得目標と内容を理解して頂くことが研修企画の基礎となる。
2. 構造・目的・受講者に伝える内容を基礎として、研修を組み立てるため、本研修を通じて各都道府県研修の振り返りの自己点検の機会として頂く。
3. 本研修をきっかけに、今後の研修の在り方の再検討の機会と同時に、法定研修をきっかけとした市町村単位で人材育成をするOJT体制の構築への動き出しを本格化して頂く。

ケアマネジメント基礎コースガイダンス

【本日の研修の概要】

午前の部（ブレイクアウトルームによるグループワーク）

1. 新アセスメント票の導入への課題・振り返り報告

午後の部（ブレイクアウトルームによるグループワーク）

2. 実習体制に向けた実践の振り返り報告
 3. 次年度実践に向けた検討（グループワーク）
 - ①新アセスメント票の導入に向けた実践内容の検討
 - ②実習体制に向けた実践方法の検討・推進
- （補足テーマ：初任者研修と連動した実地教育体制への発動）

長野県 上小圏域基幹相談支援センター
所長 橋詰 正

午前の部（ブレイクアウトルームによるグループワーク）

1. 新アセスメント票の導入への課題・振り返り
2. 実習体制に向けた実践の振り返り

11：00～12：00	60分	PG03 演習ガイダンス （10分）
		実践報告（5分） ブレイクアウトルーム （GW） ※アイスブレイク
		実践報告（15分） ブレイクアウトルーム （GW）
		実践報告（15分） ブレイクアウトルーム （GW）
		全体での研修実施のまとめ（5分）

告示と標準カリキュラムの関連

	告示	区分	時間	標準カリキュラムの科目
1 日目	オリエンテーション 研修受講ガイダンス		9:30~10:30	1h 本研修の獲得目標 プログラム概要
	障害児者の地域支援と相談 支援従事者(サービス管理責 任者・児童発達支援管理責任 者)の役割に関する講義	講義 1	10:30~12:00	1.5h ① 相談支援の目的
		講義 2	13:00~14:30	2.5h ② 相談支援の基本的視点 I
			14:45~15:45	
【相談支援概論(5時間)】	講義 3	16:00~17:00	1.0h ③ 相談支援に必要な技術	
2 日目	障害者総合支援法及び児童 福祉法の概要並びにサー ビス提供のプロセスに関する 講義	講義 4	9:30~11:00	1.5h 障害者総合支援法及び児童福祉法の理念・現状とサービス提供プロセス及びその他関連する法律等に関する理解
		講義 5	11:10~12:40	1.5h 障害者総合支援法及び児童福祉法における相談支援(サービス提供)の基本
	【法制度(3時間)】	講義 6	13:40~15:10	1.5h 相談支援におけるケアマネジメントの手法とプロセス
		講義 7	15:30~17:00	1.5h 相談支援における家族支援と地域資源の活用への視点
	【相談支援の実際(3時間)】			
	研修のまとめ		17:00~17:30	0.5h 研修のまとめ
	3 日目	ケアマネジメントプロセスに関 する講義及び演習 【(31.5時間)】		9:30~16:30
4 日目	演習 1		9:30~12:30	3h 相談支援プロセ スの具体的理 解)
			13:30~16:30	3h 目標の設定と計画作成 評価及び終結
			16:45~17:45	1h 実習ガイダンス

令和2年度相談支援指導者養成研修資料
(一部改変)

9月16日

9月17日
午前

昼 休 憩

12 : 00 ~ 13 : 00

午前の部（ブレイクアウトルームによるグループワーク）

1. 新アセスメント票の導入への課題・振り返り
2. 実習体制に向けた実践の振り返り

13:00～13:50	50分	PG03 演習ガイダンス (5分)
		実践報告 (20分) ブレイクアウトルーム (GW)
		実践報告 (20分) ブレイクアウトルーム (GW)
		全体での研修実施のまとめ (5分)

7

令和2年度相談支援指導者養成研修資料
(一部改変)

	科目名	区分	時間	標準カリキュラムの科目
実習	相談支援の基礎技術に関する実習	実習 1-1		相談支援(ケアマネジメント)の基礎技術に関する実習1【相談支援プロセスの実践①】
		実習 2		地域資源に関する情報収集
5日目	ケアマネジメントプロセスに関する講義及び演習【(31.5時間)】	演習 2-1	9:30～16:30	6h 実践研究 実践研究1(実践例の共有と相互評価1)【アセスメント結果の検討(スーパービジョンの体験)】
実習	相談支援の基礎技術に関する実習	実習 1-2		相談支援(ケアマネジメント)の基礎技術に関する実習2【相談支援プロセスの実践①】
6日目	ケアマネジメントプロセスに関する講義及び演習【(31.5時間)】	演習 2-2	9:30～12:30 13:30～14:30	4h 実践研究 実践研究2(実践例の共有と相互評価2)【再アセスメント結果および支援方針(計画案)の報告・共有(ケースレビューの体験)】
演習 3-1		14:45～16:45	6h 実践研究 実践研究3(実践研究とサービス等利用計画作成)【ケアマネジメントプロセスの定着演習】	
演習 3-2		9:30～12:30 13:30～14:30		
7日目		演習 4	14:45～17:15	2.5h 研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り

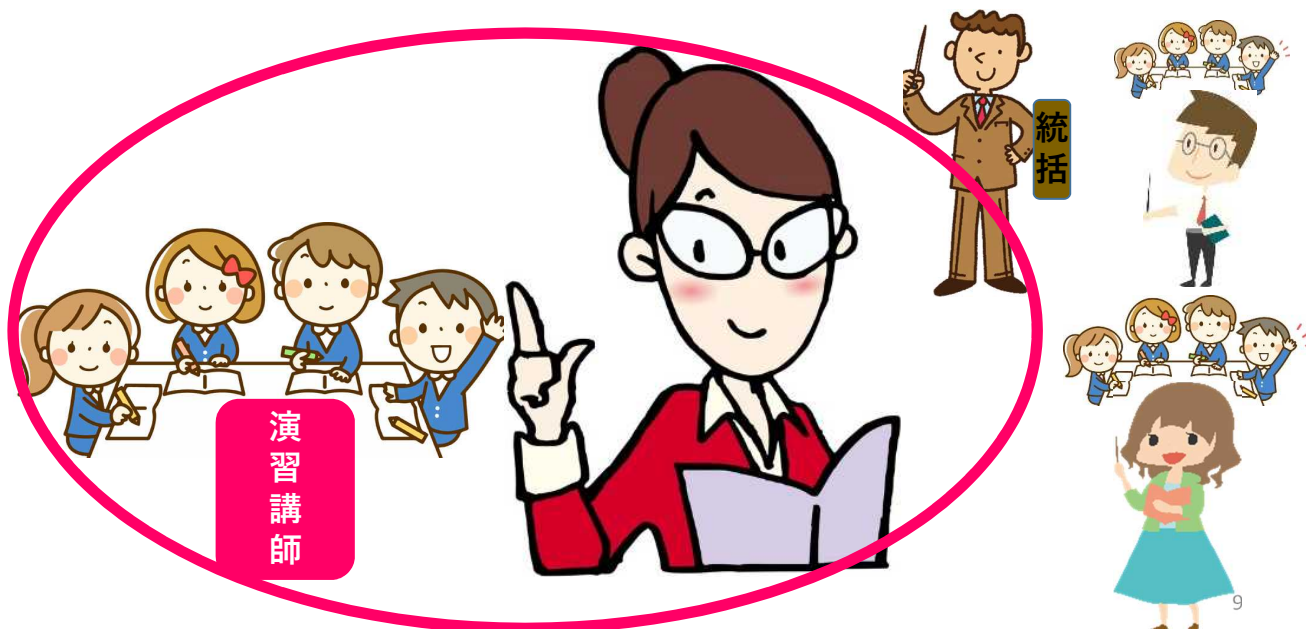
9月17日
午後

8

【モデル事例を使った、2日間演習のゴール設定】 演習は、演習統括と演習講師により展開する

演習2日：受講生が、地域に戻り、集めた情報からアセスメントし、ニーズを導きだす。(3日目)

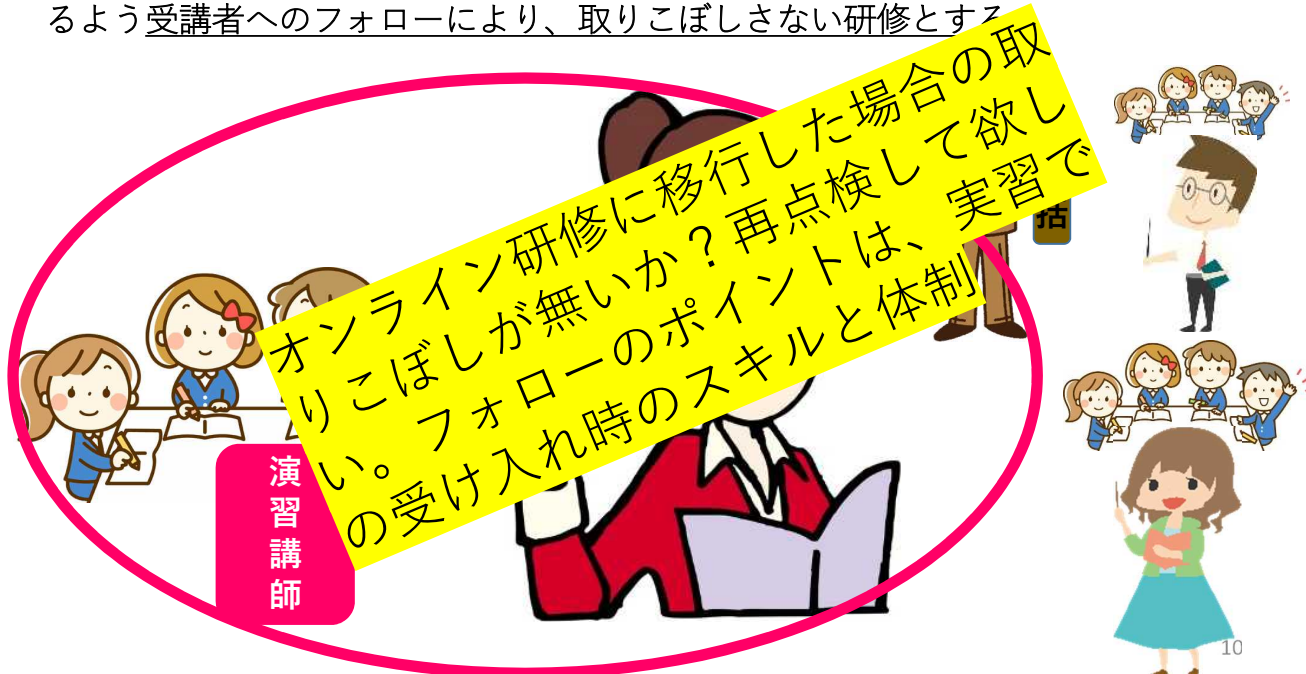
サービス等利用計画(案)の作成ができ(4日目)、サービスの利用調整やサービス担当者会議を開催し、モニタリング・終結の一連の流れが理解され、実践できるよう受講者へのフォローにより、取りこぼしさない研修とする。



【モデル事例を使った、2日間演習のゴール設定】 演習は、演習統括と演習講師により展開する

演習2日：受講生が、地域に戻り、集めた情報からアセスメントし、ニーズを導きだす。(3日目)

サービス等利用計画(案)の作成ができ(4日目)、サービスの利用調整やサービス担当者会議を開催し、モニタリング・終結の一連の流れが理解され、実践できるよう受講者へのフォローにより、取りこぼしさない研修とする。



ケアマネジメントプロセスを学んでの実習

実地教育1 研修3日目で学んだ知識を実践

【講義】

- ・利用者及びその家族との信頼関係の構築の重要性について

【演習】

- ・契約に関する制度上の位置付けや留意事項
- ・受付及び初期面接の場面における相談支援の視点と信頼関係を築くための技術（受容、共感、傾聴）について模擬面接などを通じて修得
- ・その際、真意の確認において特別な配慮を要する障害者（知的障害児者や自閉スペクトラム症者等）とのコミュニケーションに留意した技術を修得

- ・主訴を始めとする本人に関する心身や環境等についての情報収集とそれをもとにしたアセスメントにより、**ニーズを導き出すまでの思考過程に関する演習**
- ・演習によりアセスメントに必要な情報収集の項目理解と方法・技術を修得（例：ジェノグラム、エコマップの活用）
- ・**利用者が持つ内面的及び環境的な強みを重視してアセスメント**を行うことの重要性を理解（ストレングスモデル）。
- ・生物・心理・社会モデルやICF等を活用し、**収集した情報を的確に分析し生活全体を捉える視点と、生活ニーズを導き出す方法・技術**を修得

5日目研修へ
(グループ・スーパービジョンの実施)

受講生自らが実践

実践事例の概要
アセスメント・見立て
ニーズ整理
地域資源調査

研修評価

基幹相談支援センター等（主任相談支援専門員等）へアクセス

実践事例と地域**資源**調査
課題のSV・疑問解決

5日目の研修準備

実践事例と地域**資源**調査
課題の加筆修正

11

ケアマネジメントプロセスを学んでの実習

実地教育1 研修3日目で学んだ知識を実践

【講義】

- ・利用者及びその家族との信頼関係の構築の重要性について

【演習】

- ・契約に関する制度上の位置付けや留意事項
- ・受付及び初期面接の場面における相談支援の視点と信頼関係を築くための技術（受容、共感、傾聴）について模擬面接などを通じて修得
- ・その際、真意の確認において特別な配慮を要する障害者（知的障害児者や自閉スペクトラム症者等）とのコミュニケーションに留意した技術を修得

- ・主訴を始めとする本人に関する心身や環境等についての情報収集とそれをもとにしたアセスメントにより、**ニーズを導き出すまでの思考過程に関する演習**
- ・演習によりアセスメントに必要な情報収集の項目理解と方法・技術を修得（例：ジェノグラム、エコマップの活用）
- ・**利用者が持つ内面的及び環境的な強みを重視してアセスメント**を行うことの重要性を理解（ストレングスモデル）。
- ・生物・心理・社会モデルやICF等を活用し、**収集した情報を的確に分析し生活全体を捉える視点と、生活ニーズを導き出す方法・技術**を修得

新カリ現任者研修（更新）も再確認する必要があります。
【意思決定支援・多職種連携】～主任研修に繋がります。
※是非、現任研修コアでの検討でもお伝え下さい。

5日目研修へ
(グループ・スーパービジョンの実施)

受講生自らが実践

実践事例の概要
アセスメント・見立て
ニーズ整理
地域資源調査

研修評価

基幹相談支援センター等（主任相談支援専門員等）へアクセス

実践事例と地域**資源**調査
課題のSV・疑問解決

5日目の研修準備

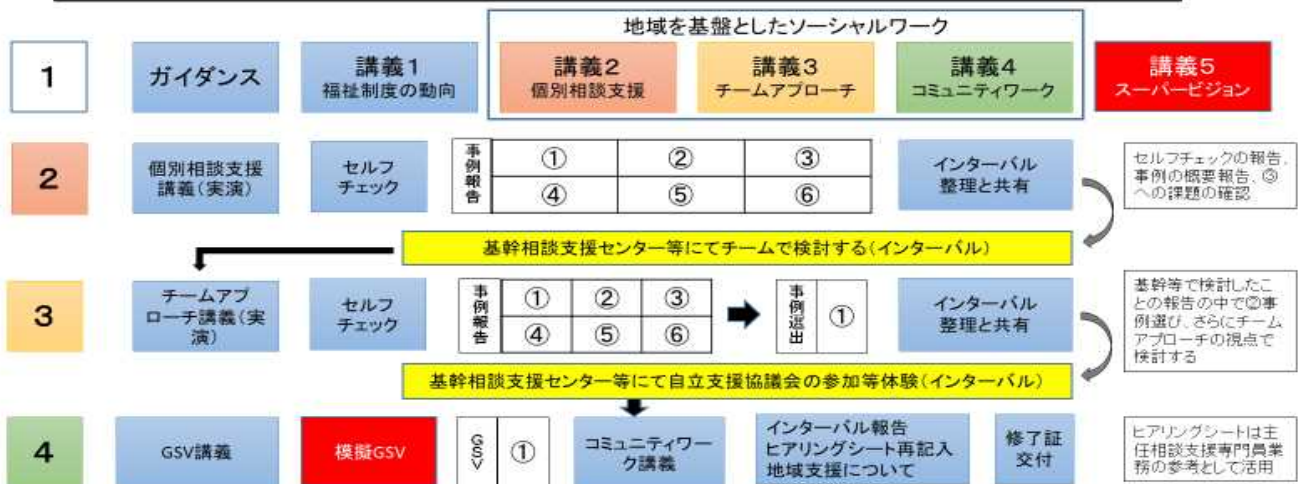
実践事例と地域**資源**調査
課題の加筆修正

12

IV 現任研修の構造並びに研修の進め方

獲得目標

- ①相談支援の基本的業務を確実に実施できる。
- ②チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践の中でチームアプローチが実践できる。
- ③コミュニティワーク(地域とのつながりやインフォーマルの活用等)の理論と方法を理解し、実践できる。
- ④スーパービジョンの理論と方法を理解し、助言・指導を受けることの必要性を理解する。



アセスメントの専門性

相談支援従事者現任研修

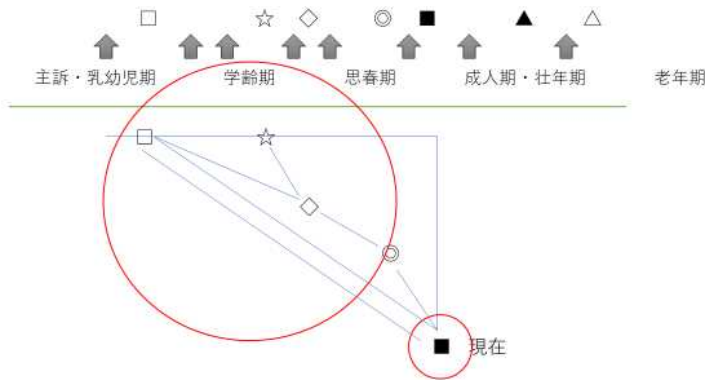
情報入手の方法(能動性)

- 主訴を端緒にして、「これがあるから他にもあるだろう」と考えながら質問していると（話を聞いていると）、他の課題が見えてくる。
- 例えば、「これはどうですか」と聞いたなら、ある時から「これとこれもあるれば、おそらくこっちもあるだろう」と頭の中で想像ができる人なら次の質問もでき、情報が増えていく。しかし、質問ができれば1個か2個しか情報は入らない。
- 支援者はどこかで頭の中で仮説とか探りを入れながら聞く**能動的なプロセスが働いていないと情報(課題)が得られない**。情報を得るのは支援者の能動的（自ら働きかけること）な行為である。

情報の整理・統合の方法(構成員)

- 情報を得たら、情報同士を統合しながら課題を把握していく。
- 主訴（困ったこと、相談理由）を端緒にして、それに関連する課題、あるいは困っていることが同じでないことを理解しながら整理する。
- 情報の整理・統合の試みは、全部情報が集まったら整理・統合するのではなく、面接や直接支援で得られた情報を整理・統合しながら、更に次の面接や直接支援での情報を加えていく。
- 面接後（介入後）に、エコマップやジェノグラム、ストレングスアセスメント等のツールに情報を加え、整理・統合する

相談支援従事者現任研修
生活史から紐解いていく



意思決定支援

(共通講義 地域を基盤としたソーシャルワークI)

- ①本人の意向を無視していないか
- ②本人の言葉の意味を吟味しているか
- ③支援者の都合が優先されていないか
- ④既存の社会資源だけが支援の前提となっていないか
- ⑤先に支援者の結論ありきで話を進めていないか

15

実習 (1回目)

相談支援従事者現任研修

- 演習1日目で**個別支援（意思決定支援）に関する明確化した課題の解決に向けて、地元圏域へ戻り、基幹相談支援センター等（委託相談支援事業所含む）により、スーパービジョンの体験**をする。

※ ここでは、個別支援に関する意思決定支援に特化したスーパービジョンの展開として整理する。

16

3日目演習：2日目

相談支援従事者現任研修

多職種連携（チームアプローチ）

1. ミニ講義（演習初日の事例をもとに、**チームアプローチ（多職種連携）の際の支援目的の共有**とセルフチェックリストの記入の講義）

2. 演習

（1）実地教育の報告後に、1の講義を受けて6名全員の事例をグループで検討する。

（2）セルフチェックによる振り返り

※ここでは、**意思決定支援の実地教育を受けての事例として、多職種連携について検討整理し、第2日目の実地教育への課題を整理する。**

（3）4日目に使用する代表事例を選出する。

17

午後の部（ブレイクアウトルームによるグループワーク）

1. 新アセスメント票の導入に向けた実践内容の検討

2. 実習体制に向けた実践方法の検討・推進

（補足テーマ：初任者研修と連動した実地教育体制への発動）

14：00～15：00	60分	PG04 演習ガイダンス（5分）
		テーマ1の意見交換（20分）
		（空白）
		テーマ2の意見交換（20分）
		全体共有 講師県の実践報告とまとめ（15分）

まとめ

19

令和3年度 相談支援従事者指導者養成研修 ケアマネジメント基礎コース

実習体制に向けた都道府県での実践と課題

本日の講師の所属県での報告

かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク	代表理事	岡西 博一
名古屋市総合リハビリテーション事業団 瑞穂区障害者基幹相談支援センター	センター長	小島 一郎
社会福祉法人鶴ヶ島社会福祉協議会 鶴ヶ島生活サポートセンター	主任相談支援専門員	岡村 英佑
長野県上小圏域基幹相談支援センター	所長	橋詰 正

講師人材の育成と実習体制整備

実習をきっかけに、市町村でのOJT体制の構築を目指す
(キーワードは基幹機能と主任機能)

研修企画者は、演習統括を含む学識や当事者を踏まえた検討を行い、実習体制構築のビジョンの中で研修を組み立てる

(初任者・現任・主任研修のつながりと構造が理解できている集団でありたい)

演習統括は、研修全体を把握でき、研修企画に参加すると共に
演習講師の育成を行う

(入口の講義講師を担えるようになる)

演習講師の育成(研修)

演習講師の目的を理解して、グループを回す。

(振り返りの講義が担えるようになる)

※ファシリテーターに徹するわけではない理解

研修カリキュラムの構造・目的・内容が理解出来ている

21

本研修で考えたい、都道府県研修
に向けた体制整備のポイント

障害発0331第7号
令和3年3月31日

計画相談支援等に係る令和3年度報酬改定の内容等及び地域の相談支援体制の充実・強化に向けた取組について

(2) 相談支援専門員養成制度の見直しと実地教育の実施体制の整備について

1) 相談支援専門員養成制度の見直しと実習の実施について

- 相談支援専門員の養成制度については、主任相談支援専門員の制度が創設され、養成が開始されたほか、令和2年度から相談支援専門員を養成する初任者研修、現任研修についてもカリキュラム改定等の制度改正を行い、その中では、初任者研修において実習を必須化したところである。
- これまで、人材養成については研修の実施主体となっていることから都道府県を中心とした取組としてきたところであるが、実地教育(OJT)の重要性が明らかになってきていることから、より現場に近いところでの教育を加えた養成体系としているところである。併せて、相談支援については、その過半において、市町村が指定権者もしくは実施主体となっていることから、今後の実地教育の体制整備や初任者研修等における実習の実施に当たっては、市町村の積極的な関与が求められるものである。

22